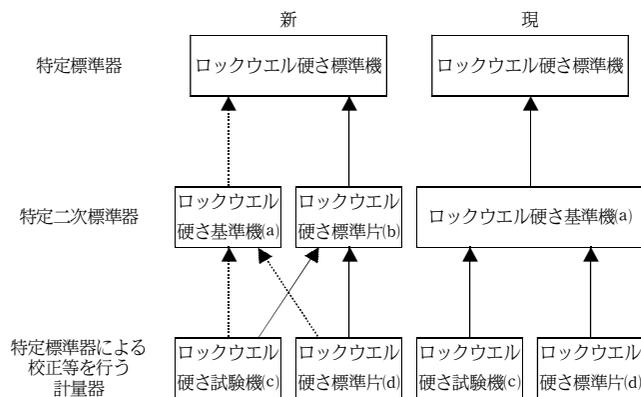


### 6.トレーサビリティの体系図及び測定の不確かさ

(1)トレーサビリティの体系図



(3)参考  
定している。  
RC 0.5 HRC を想  
定している。  
場合において 0.35 H  
RC 0.5 HRC を想  
定している。  
場合において 0.35 H  
RC 0.5 HRC を想  
定している。

#### 2. 特定標準器

ピッカーズ硬さ標準機  
(既存)



図1 特定標準器の構成

ピッカーズ硬さ標準機  
(既存)

### 国内唯一の手はかり・テンションゲージの専門メーカー

参考資料4-1

#### 校正等の実施について (ロックウエル硬さ)

(2640号⑤面のつぎ)

ロックウエル硬さ試験機(c)の場合において0.30 HRC、0.34 HRC (同40 HRC未滿)を想定している。

#### 1. 背景

ピッカーズ硬さ試験は当初おもに研究用に用いられていたものが、その後適用範囲の広さが認められ様々な材質・形状の試料に適用可能な汎用硬さ試験法としてロックウエル硬さに次いで産業界で多く利用されるようになった。

#### 3. 特定標準器の概要

ピッカーズ硬さ標準機は、試料台のせられた硬さ標準片に対し、錘により発生される安定した試験力を、正確な正四角錐形状に加工されたダイヤモンド圧子を介して負荷し、硬さ標準片の表面にくぼみ(圧痕)を作成する。試験力を除荷した後、くぼみの大きさを装置に取り付けられた測微接眼レンズを使って0.01mmの分解能で測定する。硬さ値(単位HV)は試験力をくぼみの表面積で割ることにより得られるが、本装置では付属のコンピュータにより自動計算されるようになっている。

#### 5. 特定二次標準器

ピッカーズ硬さ標準片であって、硬さの範囲が200HV以上900HV以下、試験力の範囲が9.807Nから490.3Nのもの。

### 資料 計量標準の供給開始と校正範囲の拡大(5)

計量行政審議会平成17年度第1回計量標準部会資料より

登録事業者が行う現状硬さ試験機(c)の場合において0.8 HRC 2.0 HRCである。

#### 4. 計量法135条第1項に基づく校正実施機関

独立行政法人産業技術総合研究所

ピッカーズ硬さ標準片の校正は、ピッカーズ硬さを装置に取り付けられた測微接眼レンズを使って0.01mmの分解能で測定する。硬さ値(単位HV)は試験力をくぼみの表面積で割ることにより得られるが、本装置では付属のコンピュータにより自動計算されるようになっている。

ピッカーズ硬さ標準機は、試料台のせられた硬さ標準片に対し、錘により発生される安定した試験力を、正確な正四角錐形状に加工されたダイヤモンド圧子を介して負荷し、硬さ標準片の表面にくぼみ(圧痕)を作成する。試験力を除荷した後、くぼみの大きさを装置に取り付けられた測微接眼レンズを使って0.01mmの分解能で測定する。硬さ値(単位HV)は試験力をくぼみの表面積で割ることにより得られるが、本装置では付属のコンピュータにより自動計算されるようになっている。

ピッカーズ硬さ標準片であって、硬さの範囲が200HV以上900HV以下、試験力の範囲が9.807Nから490.3Nのもの。

ピッカーズ硬さ標準機は、試料台のせられた硬さ標準片に対し、錘により発生される安定した試験力を、正確な正四角錐形状に加工されたダイヤモンド圧子を介して負荷し、硬さ標準片の表面にくぼみ(圧痕)を作成する。試験力を除荷した後、くぼみの大きさを装置に取り付けられた測微接眼レンズを使って0.01mmの分解能で測定する。硬さ値(単位HV)は試験力をくぼみの表面積で割ることにより得られるが、本装置では付属のコンピュータにより自動計算されるようになっている。

06年上半期(4月~9月)、同下半期(10月~07年3月)の予想は、「非常に良い」「良い」「やや良い」がそれぞれ57.3%、6%、57.3%となり、引き続き好調が持続するとしている。

05年10月~06年3月の実績は「増加」が48.8%と最も多く、「不変」34.1%、「減少」17.1%であった。前回調査に比べ「増加」「減少」がそれぞれ3%ほど増えている。06年4月~9月の予想は、「増加」が52.4%に増え、「減少」は9.8%

05年10月~06年3月の実績は「好転」39.0%、「不変」42.7%、「悪化」18.3%で、前回調査に比べ好転が約4%増えている。4月~9月の予想では「好転」は37.8%とほぼ横ばいで、「不変」50.0%となっている。

「為替レート」今後6カ月の中心相場及び現在の設定レートは

「設備投資」既存の設備機器については「適正である」70.8%、「不足」25.6%となっており、30.2%が「不足」と答えた前回調査に比べ、「不足」感が解消傾向にある。

「採用を見送る」が17.1%であった。

「当面する経営の重点課題」

「環境マネジメントシステム」

06年上半期(4月~9月)、同下半期(10月~07年3月)の予想は、「非常に良い」「良い」「やや良い」がそれぞれ57.3%、6%、57.3%となり、引き続き好調が持続するとしている。

05年10月~06年3月の実績は「増加」が48.8%と最も多く、「不変」34.1%、「減少」17.1%であった。前回調査に比べ「増加」「減少」がそれぞれ3%ほど増えている。06年4月~9月の予想は、「増加」が52.4%に増え、「減少」は9.8%

05年10月~06年3月の実績は「好転」39.0%、「不変」42.7%、「悪化」18.3%で、前回調査に比べ好転が約4%増えている。4月~9月の予想では「好転」は37.8%とほぼ横ばいで、「不変」50.0%となっている。

「為替レート」今後6カ月の中心相場及び現在の設定レートは

「設備投資」既存の設備機器については「適正である」70.8%、「不足」25.6%となっており、30.2%が「不足」と答えた前回調査に比べ、「不足」感が解消傾向にある。

「採用を見送る」が17.1%であった。

「当面する経営の重点課題」

「環境マネジメントシステム」

06年上半期(4月~9月)、同下半期(10月~07年3月)の予想は、「非常に良い」「良い」「やや良い」がそれぞれ57.3%、6%、57.3%となり、引き続き好調が持続するとしている。

05年10月~06年3月の実績は「増加」が48.8%と最も多く、「不変」34.1%、「減少」17.1%であった。前回調査に比べ「増加」「減少」がそれぞれ3%ほど増えている。06年4月~9月の予想は、「増加」が52.4%に増え、「減少」は9.8%

05年10月~06年3月の実績は「好転」39.0%、「不変」42.7%、「悪化」18.3%で、前回調査に比べ好転が約4%増えている。4月~9月の予想では「好転」は37.8%とほぼ横ばいで、「不変」50.0%となっている。

「為替レート」今後6カ月の中心相場及び現在の設定レートは

「設備投資」既存の設備機器については「適正である」70.8%、「不足」25.6%となっており、30.2%が「不足」と答えた前回調査に比べ、「不足」感が解消傾向にある。

「採用を見送る」が17.1%であった。

「当面する経営の重点課題」

「環境マネジメントシステム」

## 好調持続とする回答が増加 計工連が会員企業に意見調査、結果まとまる

【会員企業の業績】  
2005年10月から06年3月の実績は「非常に良い」「良い」「やや良い」が合わせて57.3%、「横ばい」「悪い」が18.3%であった。前回調査に比較し、僅かではあるが業況が上向き傾向にあることがうかがえる。

【生産・売上高】  
05年10月~06年3月の実績は「増加」が48.8%と最も多く、「不変」34.1%、「減少」17.1%であった。前回調査に比べ「増加」「減少」がそれぞれ3%ほど増えている。06年4月~9月の予想は、「増加」が52.4%に増え、「減少」は9.8%

【為替レート】今後6カ月の中心相場及び現在の設定レートは

【設備投資】既存の設備機器については「適正である」70.8%、「不足」25.6%となっており、30.2%が「不足」と答えた前回調査に比べ、「不足」感が解消傾向にある。

【採用を見送る】「採用を見送る」が17.1%であった。

(2641号①面のつぎ)

(2640号⑤面のつぎ)

(2640号⑤面のつぎ)

(2640号⑤面のつぎ)

(2640号⑤面のつぎ)

(2640号⑤面のつぎ)

(2640号⑤面のつぎ)